

# 清泉女子大学発展協力会

## 活動のご報告

2022年6月



2021年度教養科目「日本芸能文化」の様子

当会は大学が行う教育研究・学生支援の充実に係る取り組みを  
経済的な側面から支えてまいります。皆様のご支援をお願い申し上げます。

発展協力会会長挨拶	2	2021年度寄付金の使途	4
【学生の報告】チャレンジ支援奨学金	3	これからの学生支援について	5

発展協力会事務局

Tel 03-3447-5551

Email [hatten@seisen-u.ac.jp](mailto:hatten@seisen-u.ac.jp)

<https://www.seisen-u.ac.jp>

平素より発展協会の諸活動に対し、ご理解とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

大学全入時代を迎え、いよいよ大学間競争が本格化してまいります。女子大学を敬遠する傾向もあり、本学の2022年度入学者数は定員を下回る結果となりました。こうした大学全入時代において、入学者の中では、学力・意欲の両面で二極化が進行していますが、受験者の大学ブランド志向は衰えそうにありません。しかしながら、ブランド力のある大学さえ出れば将来は安定するという時代は過ぎ去ったといえるでしょう。国際社会における日本の競争力や存在感は低下し続けています。先進国の国民として「ゆとり」ある暮らしを謳歌してきたつもりでしたが、それがいつの間にか「ゆりみ」につながってしまったとも考えられます。また勤勉で真面目に働いて一億総中流と言われた時代も過去のものとなりました。大学にとって、予測不可能な時代を生き抜くための人材育成は、社会から課せられた大きな課題といえます。

本学においては、正課における汎用的能力や専門的な知識の修得に加え、正課外における充実した実践的活動（フィールドワーク、インターンシップ、ボランティア、自治体や企業と連携したPBL活動など）により、社会との接点を持つ機会を創出し、社会の変化に機敏に対応できる人材の育成につとめています。また、本学の人材育成の根幹は、「まことの知・まことの愛—広く学び、深く考える 人のために、人とともに」であり、今後も、地球市民の視座から社会のため、人のために尽くす気概をもって、他者と協同して困難を解決していく女性を社

会へ輩出していかなければなりません。

聖ラファエラ・マリアの言葉に「知性を伝えるとか、教養を豊かにするだけでなく、それを何に振り向けるか、何に使っていくか、他者への奉仕、寄り添う気持ちが無ければ教育は失敗」というものがあります。発展協会では、経済的な側面からさまざまな学生支援を行っていますが、チャレンジ支援奨学金を通じて、「他者に奉仕」する精神の涵養と実践のための支援を行っています。この奨学金は、学生が、①将来の目標や希望を実現するために、②ネットばかりに頼らず現場に赴き、③学内外・国内外の多様な人々と触れ合い協同しながら行動する、学生のチャレンジを後押しするものです。更にこれからは、どんなに優秀な学生であっても学生の実力だけでは出会えない世界や人との繋がりを持てるような手助けについても、支援制度に組み入れていければと考えております。

これからの時代に求められる女性像をしっかりとイメージして、正課での学びと正課外での実践を通じ、鍛えられた強かで優しい女性を輩出する大学として今後も在り続けることができよう、発展協会は大学と共にいろいろな取り組みを考えてまいりたいと思います。どうぞ皆様引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

発展協会会長

きょうづか  
経塚 じゅん  
淳



スペイン語スペイン文学科 3年 <sup>ほしの ゆづき</sup> 星野 悠月 さん

——今回応募しようと思ったきっかけについて教えてください。

私はチャレンジ支援奨学金を活用して、小笠原諸島にある小笠原海洋センターを訪問し、ウミガメの調査保全・環境教育などの活動全般を支えるボランティアとして、1か月間にわたり活動しました。応募のきっかけは、ウミガメの保全活動に参加することで、生物の多様性や地球の環境問題に向き合い、自然を守りながら、人間や生物が暮らしやすい環境を作っていくために、自分ができることを深く考えたいと思ったからです。

私は子供の頃からアウトドアが好きで、ガールスカウトによる植樹や野外活動も積極的に行ってきました。こうした経験から、環境と調和した持続可能な社会づくりを自分のライフワークにしたいと考えるようになりました。そして今回の活動は、環境リーダーとしての資質を身につけるための実践的な学びの場になると考え、応募しました。

——現地での具体的な活動について教えてください。

約1か月間、小笠原海洋センター職員の指導で、ウミガメの飼育と産卵・ふ化率の調査、卵の保護活動などを行いました。

ウミガメの飼育については、毎日、水槽掃除や餌やりを行いました。産卵・ふ化率調査では、産卵巣を掘り起こして、卵が産み落とされてからの日数をカウントしたり、ふ化した後の殻を数え、どのくらいの割合でふ化できたのかなどを調べたりしました。ま



ふ化したカメがふ化場から逃げないようにネット掛けを行う星野さん

た、ふ化した稚ガメが海よりも街の明かりに誘引され、街へ歩いていってしまうことを防ぐため、海洋センターのふ化場に作った産卵層に、街に近い海岸で産卵された卵を埋める保護活動も行いました。ウミガメは1回で100個程度の卵を産むので、それらを全て手作業で埋めるのは大変な作業でした。

——活動による学びや気づきについて教えてください。

小学生の頃から環境問題に興味を持っていましたが、今回初めて実践による学びを得ることができました。このボランティアに参加したことにより、環境問題やウミガメについて詳しく知ることができただけでなく、環境問題に対する意識もさらに向上したと思います。

また、このボランティアでは、私たちの身近な問題である、マイクロプラスチックについても理解を深めることができました。プラスチックの問題は深刻ではありますが、私たち1人ひとりが意識して変えていけば、必ず解決できる問題だと私は思います。

——発展協力会へのメッセージをお願いします。

今回の活動は、私にとって、とても誇れるような経験となりました。この先の将来も、私たち人間や海洋生物、そして地球にとって良い暮らしができるよう、この経験を忘れずにいたいと思います。チャレンジ支援奨学金により、とても貴重な体験をさせていただきましたことに、心より感謝申し上げます。



無事に大人になれますようにと願いながら稚ガメを放流しました

## 2021 年度寄付金の使途

皆様からの温かいご支援により、2021 年度は 621 件、619 万 2,656 円のご寄付をいただきました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。これらの寄付金は、右記のとおり教育活動の支援等のために役立てさせていただきました。

2021 年度は緊急事態宣言の発出状況にあわせて、前期は原則オンライン、後期は原則対面で授業を行いました。そのため、正課外活動も後期から徐々に再開してまいりました。また、ラファエラ・アカデミアは対面に加えオンライン講座も設け、開講につなげることができました。その結果、①②④⑥⑦の項目で一昨年度より寄付金の利用学生数・利用金額が増加しました。

⑧については、「受講形態変更に伴う遠隔授業の受講に関わる補助」「家計急変した学生への給付奨学金」「図書郵送貸出サービスに係る支援」を行いました。対面で授業が行われた期間であっても、やむを得ない理由によりオンラインでの受講が認められた学生も少

### 〈2021 年度寄付金の使途〉

① グローバル人材育成のための支援金 (77 名)	731,800 円
② チャレンジ支援奨学金 (1 名)	99,834 円
③ 学業奨励奨学金 (10 名)	1,000,000 円
④ キャンパスキャスト等への支援	700,000 円
⑤ ボランティア支援	0 円
⑥ ラファエラ・アカデミア受講サポート (53 名)	85,400 円
⑦ 発展協会寄付講座 (8 講座)	167,050 円
⑧ 新型コロナウイルス感染症に係る学生支援 (延べ 438 名)	3,408,572 円

なくなく、また、オンライン授業のメリットを活かし、昨年度からオンラインを継続している授業も一部あったため、発展協会寄付金を活用した各種サービスは、多くの学生に利用され、学習活動継続のために欠かせない支援となりました。

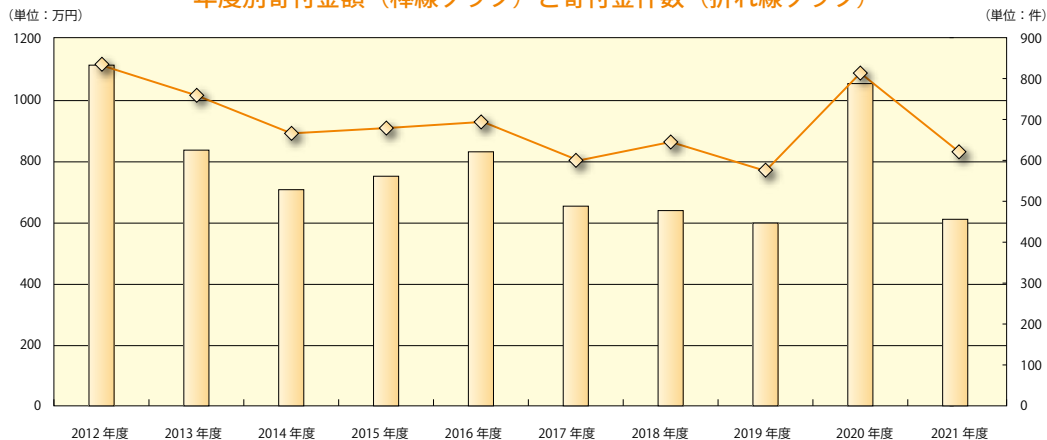
### 発展協会 2021 年度醸出金明細表

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

(単位：円)

個人会員								法人会員		合計	
(1) 本学に在籍した者		(2) 本学に在籍した者の父母及び家族		(3) 本学現旧教職員		(4) 一般の有志		件数	金額	件数	金額
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額				
571	4,946,756	10	245,000	35	890,900	5	110,000	0	0	621	6,192,656

### 年度別寄付金額 (棒線グラフ) と寄付金件数 (折れ線グラフ)



# これからの学生支援について

## 本学を取り巻く状況

本格的な大学全入時代を迎え、2022年度入試では、前年度よりも志願者数減となった大学が多数見られました。清泉女子大学においても、入学者数が入学定員を下回る結果となりましたが、学生募集の強化や財務状況の改善(収益の多角化やコスト削減等)に早急に取り組んでまいります。また、これまでと同等な教育の質を維持し、学生が充実した大学生活を送れるよう、教職員一丸となり、学習支援・学生支援を行ってまいります。

発展協力会では、今後も大学を経済的な側面から支え、教育・研究活動の持続的な発展と学生の成長促進に寄与してまいりたいと思います。皆様からの温かいご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 充実した支援に向けて

本学の学生支援部署におけるコロナ禍での支援の様子やご寄付の活用予定についてご報告いたします。

### 【学生課】

2020年度及び2021年度は、コロナ禍のため、学生の課外活動も多く制約がありました。特に春のガーデン・パーティーと秋の清泉祭は、中止、オンライン開催、ハイブリッド開催等を経験し、学生たちの思い描くイベントとは異なる形での実施を余儀なくされました。学生たちは、対面での活動ができないという不自由な状況の中、ガーデン・パーティーや清泉祭を実施したいという強い思いから、粘り強さを見せてくれました。特に、オンライン実施では手続きが大変な著作権についても、ひとつひとつ問題をクリアしながら実施したことで、著作権について学ぶ機会にもなりました。

2022年度のガーデン・パーティーは、久しぶりに全て対面で開催することができ、保護者と卒業生を招いてのイベントとなりました。今後も学生たちと共に工夫をしながら、課外活動を通じた学生の成長を見守りたいと考えています。

また、発展協力会奨学金、学業奨励奨学金を通じたご支援により、経済面での理由等で学生が学業の継続を断念することなく、充実した学生生活を送ることができており、本年度もこうした奨学金による支援を行ってまいります。

皆様のご支援に厚く御礼申し上げます。

### 【国際交流センター】

コロナ禍においても、長期留学をみずす学生が留学の夢に向かって準備できるよう、本センターでは清泉ポータルサイト、国際交流センターのSNSなどで発展協力会の助成金制度を周知し、活用するよう学生に呼びかけてきました。特に1年次生には、TOEFLなどの語学試験申し込み時に、口頭でも助成金制度について説明し、助成金を有効に利用して、語学試験の受験回数を増やすように勧めています。

2022年度においても、昨年度と同様、留学準備講座受講料、語学試験受験料(TOEFL-ITP、DELE、西検、IELTS)及び日本語教育能力検定試験受験料の補助に、発展協力会への寄付金を活用させていただきます。特に、学生の英語力向上のため、TOEFL-ITP受験者数と留学準備講座受講者の増加をみずします。

語学試験は留学には必須のため、指定の点数を取得するためには複数回の受験が必要であるにも関わらず、その検定料は、例えばIELTS(29,400円)、DELE(14,900円・B1レベル)と大変高額です。大変ありがたいことに、発展協力会のご支援のお陰で、学生は何度も語学試験にチャレンジすることができます。このご支援がなければ、留学に必要な点数を満たせず、留学を諦めざるを得なくなった学生がいたかもしれません。今後とも学生の海外留学・国際交流のために、変わらぬご支援をお願い申し上げます。



2021年度清泉祭(対面とオンラインで実施)

# これからの学生支援について

## 【教育・学修支援センター】

本センターは、本学における学びと教育を総合的に支援することを目的として、2020年度に新たに設置されました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、センター発足直後から感染症対策下における授業の継続環境の構築、学生や教員の支援を行ってまいりました。おりしも新入生はBYOD（Bring Your Own Devices 自分のPCを学内で使用すること）を本格的に開始したタイミングであり、全学生がPCを準備していたため、比較的スムーズにオンラインに移行することができました。

上級生の中にはPCの準備が間に合わない学生も多く、約150台のPCを新規に調達して学生に貸与した他、LMS（Learning Management System 学修システム）をはじめとするオンラインツール（Zoom等）の利用支援も行いました。

発展協会の皆様からのご支援は、「新型コロナウイルス感染症に関する緊急学生支援」の一環である、遠隔授業の受講に関する助成金として、過去2年間で延べ2,400名以上の学生を支援することができました。

2022年度はオンラインを活用しつつも、対面授業を中心に行っております。やむを得ない理由によりオンラインでの受講が認められた学生もいますので、本年度も発展協会のご寄付を活用させていただく予定です。

新型コロナウイルス感染症は社会生活に甚大な影響をもたらしましたが、これを契機に教職員や学生のPCスキルが向上し、自然災害に強い学修環境や教育方法が確立されるようになりました。教育・学修支援センターでは、今後も教員と連携をとりながら、継続して本学の教育を改善してまいります。今後とも、変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。



2020年度に設置された教育・学修支援センター

## 2022年度使途予定

2022年度は寄付金の目標額を800万円に設定し、皆様からいただくご寄付は、主に下記の目的で活用させていただきます。

① 新型コロナウイルス感染症に係る学生支援	120万円
② グローバル人材育成のための支援金	150万円
③ チャレンジ支援奨学金	140万円
④ 学業奨励奨学金（成績優秀者表彰）	100万円
⑤ キャンパスキャスト等への支援	70万円
⑥ ボランティア支援	30万円
⑦ ラファエラ・アカデミア受講サポート	10万円
⑧ 発展協会寄付講座	20万円

## ご支援のお願い

皆様からのご寄付は、従来行っている学生支援や教育・研究活動の充実のための資金として活用させていただくとともに、新型コロナウイルス感染症に係る学生支援のための資金としても、有効に活用させていただきます。何卒ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

お申込みは、①コンビニエンスストア、②ゆうちょ銀行・郵便局、③銀行振込、④インターネットなどの方法がご利用いただけます。

また、本学にご寄付いただいた場合には、税制上の優遇措置を受けることができます。お手続きの詳細につきましては、本学公式Webサイトをご覧ください。

※本報告書に添えて送付いたしました払込票の中には、あらかじめお名前、金額等が印字されたものがございますが、これは、コンビニエンスストアのシステムを利用するに際し、印字が必須とされていることによるものでございますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

なお、お電話または電子メールでご連絡いただければ、払込票の送付を中止させていただきます。

## 【インターネット寄付の受付システム】

<https://www.seisen-u.ac.jp/support/donation.html>

